DO YU 同友 みやざき
MIYAZAKI journal
No.431
2025. 12. 12
✉ info@miyazaki.doyu.jp
https://miyazaki.doyu.jp

「燃やせ！開拓者魂 ～自分が変われば未来が拓ける～」

11月7日　第34回みやざき中小企業経営フォーラム
高鍋の地で220名の参加で開催

2013年に設立したひむか支部地域での初開催。ひむか支部のある児湯地域は農業の盛んな地域。実行委員長の小原拓也さん（小原農園　代表・ひむか支部）も農業を営んでおり、一人で悩んでいる農業経営者に同友会を知ってもらいたいと企画しました。

〈 AM 11:00 〉
朝11時に実行委員、各分科会座長・室長が集まり最終確認。皆さんをお出迎えする準備をしました。

〈 PM 1:30 〉
分科会がスタート！各分科会報告者の実践に学びを深めました。

〈 PM 5:30 〉
分科会が終わった後は全体会・記念講演。小原実行委員長のあいさつで終了。

会場設営でもひむか支部の力を発揮。日ごろから付き合いの深い高鍋信用金庫の会議室で2分科会、見学分科会では、養豚業を営む(有)尾鈴ミートへ。そして、全体会は高鍋町美術館のホールにて行いました。

〈 PM 7:30 〉
児湯郡を中心に活動をしている秋月太鼓のみなさんによる演舞。その後は、ひむか支部会員でもある黒木高鍋町長の乾杯のご発声で懇親会がスタート

〈 PM 9:30 〉
最後は次回第35回経営フォーラム実行委員長の立山氏にバトンタッチで幕を閉じました。

DO YU 活動ズームアップ

［ 県北支部 ］
財務勉強会2025

今年度も県北支部では毎年恒例の財務勉強会を開催。11月18日(火)延岡市中小企業振興センターにて、IGプレーン宮崎(株)の直野祐樹を講師に15名が学びあいました。今回は参加者も経営者だけでなく、社員も参加OKということで1日かけてみっちり財務の指標、貸借対照表や損益計算書の見方、決算書からの数値計算など、基本的な事から応用までの講義を行いました。

［ 宮崎南支部 ］
アイカツ

11月15日（土）のアイカツ「みんなの事業を知り合う会」は高橋氏（外壁塗装業）と戸髙氏（スポーツクラブ運営）の30分毎の話の後、懇談会へ。半生話もありで、色んな経験や思いがあって事業を継続されていることが伝わってきて、参加者は色々と刺激を受けていました。ゆるい感じで参加しやすい、でも結局熱い話に。実に面白い企画ですよ。

［ 青年部会 ］
第53回青年経営者全国交流会in香川

11月20-21日に第53回青年経営者全国交流会in香川が開催。宮崎同友会からは30名(うちオンライン10名)が参加、全国から2,142名が参加しました。「守破離」をテーマに20分科会と記念講演が開催されました。第5分科会では㈱永峰養豚場の永峰さんが報告。全国大会では参加者の意識も高く、普段の例会以上の学びと刺激を得ることができました。来年は10月1-2日宮城県仙台市で開催されます。皆さん来年も参加しましょう！

＼ 新着まだまだ、たくさん活動しています！／
活動内容は同友会
Facebookでも配信中!!

11月理事会報告

日時：11月29日（金）16:00～19:00　於：宮崎市民プラザ
理事29名中27名出席（出席率93.1%）＋事務局2名

01. 前回理事会（10月29日）以降の活動の経過報告を確認するとともに、11月28日までの2名の入会申し込みと9名の退会申出を承認しました。会員数は444名。
活動の経過報告では、下記2点について事務局より補足報告がありました。
① 「地域とともに未来へ 宮崎同友会30年のあゆみ」が11月10日に発刊され、全会員および祝辞を寄せていただいた河野宮崎県知事や広浜中同協会長をはじめ、これまでの講師関係者等に配布しました。
② 11月16日からの最低賃金引き上げに関連し、UMKとMRTから取材依頼があり、那須代表が景況調査の結果も踏まえ、中小企業の現状について同友会が団体としてコメントしました。

02. 各推進協議会から
（1）組織強化推進協議会より、11月の会員増強月間の成果と課題、推進協議会としても財務的視点をもつことの必要性を確認したことが報告されました。また、役員自身の会社の成長が同友会活動の基盤であることがあらためて強調されました。
（2）人が育つ会社づくり推進協議会より、来期活動では「経営者基礎講座」の再開が検討されていることの報告があるとともに、役員研修会の設営担当の見直しが要望されました。
（3）地域づくり推進協議会より、12月8日（月）17時からZoom会議で行う新春経営者交流会のプレ報告会へ、理事（当日グループ長）に出席要請がありました。案内チラシは12月10日発送予定の広報誌に同封される予定。

03. みやざき中小企業経営フォーラムについて
（1）第34回フォーラムの準備について小原実行委員長より、最終の参加申し込みと収支見込が報告されるとともに、12月17日（水）開催のフォーラム実行委員会の総括会議にむけて、各支部幹事会と青年部会幹事会は、資料で用意された振り返りシートを12月12日（金）までに提出してほしいと要請がありました。
（2）来年の第35回経営フォーラムは、宮崎北支部の立山智洋氏（ピシャット内装代表）が担うことを確認。
実行委員会組織の立ち上げに向けて、立山実行委員長からは「12月中に各支部より副実行委員長を1名（支部の状況を把握している方、幹事会と意思の疎通が取れる方）を選出してほしい。1月21日(水)18時から、同友会ネットワークセンターで、骨格と組織体制案、第1回実行委員会の日程を検討し、支部からの実行委員の人数案を含めて、1月理事会(1月29日(木))に提案したいと考えている」と提案があり、これを了承しました。

04. 総務財務委員会より、第3回委員会の内容として下記4点の報告があり、確認しました。
①九州沖縄ブロック共通就業規則案について11月委員会で検討した結果。この意見を宮崎同友会理事会からの意見として1月のブロック代表者会議に提案することとしました。
②事務局の冬季賞与の執行。
③向こう5年間の財政シミュレーション作成の前提要件。
④例会の費用とゲスト参加費収入の11月までの状況が報告され、費用は各支部・青年部会とも予算内での対応がなされているものの、ゲスト参加者数が目標の半分に留まっているため後半ではゲスト動員の強化が要請されました。

05. 2026年度の理事会体制について、
（1）各組織からの推薦をもとに選考委員を確認しました。
（2）2026年度の理事会体制は10～12名の専門理事と各支部代表幹事、青年部会部会長および事務局長とすることとし、新年度の活動方針の具体化と平行して体制を詰めていくこととしました。また、一般社団法人化にともなって、理事や監事の登記手続きについても確認しました。

06. 一般社団法人法人化にむけての定款（案）について、法人化準備特別委員会での3回にわたっての検討の結果として定款（案）が提示され、意見交換を行いました。不明点について数点意見がだされ、準備特別委員会からの説明を12月理事会で確認することとしました。
設立にむけてのスケジュールとして、12月と1月の理事会で定款（案）の審議を重ね、2月は各幹事会等への説明・意見集約を行い、5月理事会で固め、3月上旬に公証人役場での認証手続きを行い、4月理事会で設立に向けての議案等の最終確認後、総会議案を全会員に送付し、5月13日第35回定時総会＆一般社団法人宮崎県中小企業家同友会設立総会の開催という流れになることを確認しました。

07. 11月20-21日に香川同友会の設営で開催された「第53回青全交」第5分科会での、㈱永峰養豚場の永峰智浩氏の報告について、座長を担当した前島理事より、「プレ報告を数回重ね、とてもよい内容だった。参加者からも『勉強になった』『元気づけられた』といった感想が多数寄せられた。すでに他県から報告の依頼がとどいている。ぜひ、支部例会での報告の機会をつくってほしい」と、報告がありました。

DO YU MIYAZAKI journal
発行 / 宮崎県中小企業家同友会　宮崎市恒久南3丁目3-2 恒吉ビル2F
TEL / 0985-50-3665　FAX / 0985-50-3653
✉ info@miyazaki.doyu.jp
宮崎同友会
miyazaki.doyu.jp
青年部公式LINE

第3分科会
共感される企業へ
～『未来投資型』事業への挑戦～

㈱中仙
代表取締役　中山 章博 氏
（県北支部 代表幹事）

「リフォーム」は古いものを新しいものに交換することで、「リノベーション」は古いものに手を加え、よりよくすることです。そのリノベーションに特化した建設業を営む中山氏は10年後のビジョン実現のため、業界における人手不足の要因を洗い出し、それらをプラスの方向へ変化させていきました。

労働条件の改善はもちろん、職人たちに今でも伝わる「技術は見て盗め」といった慣習を変えるため業務内容をリスト化し、項目ごとに自己評価と上司評価を照らして個別の面談を行う「職務レベル表」を作成しました。社員と成長の道標を共有する取り組みは素晴らしいものであり、「教育は全ての業務に優先する」と謳い実行しされる中山氏の取り組み。「分かってはいるけど、日々の業務が忙しくてついつい教育の機会は後回しになっている」という自分に喝をもらったという参加者も多かったのではないでしょうか。

学びの機会は自社内に留まらず、電気、水道、ガス、壁紙、外構など建物をともにつくる業者の仲間を集めて研修や交流会も実施されており、関連業者との協力体制も強固となっています。2011年の創業とともに同友会に入会された中山氏の「学びと挑戦」の報告には今フォーラムのメインテーマである「燃やせ！開拓者魂」そのものである、業界を切り開く強さと信念を感じました。

当日は奥様をはじめ、㈱中仙の社員の皆さんも分科会に参加されており、グループ討論も赤裸々かつ活発に行われ大いに学びを交流することができました。

最後になりますが、今回座長として関わらせていただき、私自身が大きな学びをいただきました。ただしい、一番大切なのは行動です。フォーラム直後に私も職務レベル表の作成に着手しました。この分科会を経ての挑戦こそが中山さんへの最大の恩返しです。参加してくださった皆さんの挑戦を楽しみにしています。

㈱ひょっとこ堂　田中 陽一（ひむか支部）

第4分科会
“かち”続ける力
～自社を見つめ環境を知り実践に生かす～

㈲尾鈴ミート
代表取締役　遠藤 太郎 氏
（ひむか支部）

見学分科会は、口蹄疫による壊滅的な被害から再起した㈲尾鈴ミートと㈱宮崎サンエアを訪問しました。現場の生産工程や経営の取り組みを体感する貴重な機会となりました。20分ほどのバスでの移動では、見学内容の説明などおこない限られた時間を有効に使っていきました。

現地では報告者の遠藤氏と幹部社員の方が二手に分かれて養豚場の設備・飼料の配合飼育から出荷の流れなどの説明を丁寧にしていただきました。参加者からは多くの質問も出されました。

見学が終わった後は、高鍋信用金庫に会場を移して遠藤氏のグループ討論。分科会のテーマにもある「かち。続ける力とは」何か――これまでの経営では「勝ち」組にこだわってきた遠藤氏でしたが、近況の内外部環境の変化、特に口蹄疫の経験から学んだ環境分析から計画・実践へと「成り行き管理」から「目標管理」へ転換し、その考えを「言語化」し全社で共有をはかっているとありました。自社の事業と地域へのつながりをしっかり見つめなおし、地域課題を自社課題ととらえ、地域での食品残渣を飼料化し、地域資源循環型の仕組みづくりに挑戦されている報告からは、強みから付加価値の創造の「価値」、取り組みの積み重ねが逆境を勝ち抜く力への「克ち」へとなっていくとの報告でした。

グループ討論の発表からは、地域課題と自社事業の関わりを意識し、その重要性を再認識すること「地域とともに発展することが事業の持続につながる」という共通認識の確認から、明日からの経営や行動に生かせる気づきと学びになった見学分科会でした。

㈲一政設備　一政 浩蔵（宮崎南支部）

記念講演
燃やせ！開拓者魂
～自分が変われば未来が拓ける～

㈱クラベル・ジャパン
代表取締役社長　平田 憲市郎 氏
（佐賀同友会 代表理事）

記念講演は、農業が盛んなひむか支部地域での開催ということもあり、佐賀県唐津市でカーネーション、唐辛子の栽培、販売している㈱クラベル・ジャパンの平田憲市郎さんに、お願いをしました。

記念講演の内容づくりをしていくなかで平田さんの圧倒的な行動力、エネルギー、ポジティブな思考から刺激を受け続けました。わたし自身、自社の現状や将来に不安を感じていたため、平田さんの一言一言に刺激を受け、自分を見つめ直すことができました。テーマにもある自分が変わるきっかけを与えてもらいました。平田さんの会社を訪問した際には、講演でも紹介された唐辛子の乾燥、加工を行うための第1歩の布団乾燥機を見て衝撃と感動を受けました。

講演では平田さんの今までの挑戦、失敗の歴史、唐辛子の袋詰め作業委託による農業と福祉の連携、時間を指定しない働き方による労働力の確保による雇用創出、農業が抱える問題に向き合いつつ地域と関わり信頼を得ていることを聞けました。

講演の締め括りに平田さんが語られた「激動を良き友に」――この言葉に平田さんという方の生き様が表されています。コロナ禍でカーネーションの売り上げが減少した際にも決して諦めず、ポジティブに考え次の一手を探し続ける姿勢、行動力。まさに「激動を良き友に」を体現されています。目まぐるしく変化していく世の中で平田さんの考え方、行動力に学ぶべきことは沢山ありました。

数々のキラーフレーズがあり、講演を聴かれた方々の心に深く刺さったのではないでしょうか。ただ思うことは簡単ですがそれを行動に移すことは簡単にはできません。今日から自分にできることを行動に移します。また、平田さんには第1分科でも報告をいただき、かなりの労力を費やしていただき、エネルギー溢れる素晴らしい記念講演でした。

黒木農園　黒木 隆正（ひむか支部）

訪問記 ほうもんき Vol. 67

高原町にある有限会社瀬戸山ブロック工業所は、1960年に都城市野々美谷町で段氏の祖父が創業したコンクリートブロック専門の会社です。その後、志和池を経て現在の高原町と拠点を移し、3代にわたり宮崎県のブロック業界を支えてきました。29歳で3代目社長となった瀬戸山さんは、地元の素材を使ったブロックづくりと、高い技術で地域の未来を支えています。ブロックの製造量は、なんと1日6,000個。年間100万個のブロックを製造し、宮崎県内のブロック業界を支えています。

㈲瀬戸山ブロック工業所

代表取締役 瀬戸 山純之さん

［きりしま支部］

「ブロック」の新しい価値を産み出し、地域の産業を支える

事業承継について

瀬戸山さんは、大学卒業後、一度は化学薬品メーカーに就職し、当初は家業を継ぐつもりはなかったそうです。ところが社会人として働くうちに「いずれ継ぐなら早い方がいい」と心境が変化し、3年目でUターンして家業に入社しました。入社からわずか4年後、父から「社長を交代しよう」と言われ、29歳で社長に就任します。

現在は経営者である一方で、現場や配送、雑務まで幅広くこなす〝なんでも屋〟として会社の中心に立ち、社員とともに現場を動かす存在となっています。

ブロック業界の課題

一方で、ブロック業界を取り巻く環境は厳しさを増しています。新築住宅の着工件数は全国的に減少傾向にあり、それに連動してブロックを使う外構工事も縮小しています。

その結果、1軒あたりに使われるブロックの数量は、かつての半分程度にまで減っているといいます。「このままブロックだけで生き残るのは簡単ではない」と率直に課題を語ります。

瀬戸山ブロックの強み

そうした逆風の中でも、瀬戸山ブロックには地域ならではの強みがあります。まず、宮崎県内でブロックを製造している会社はわずか2社しかなく、その一角を担っていることです。ブロックは重く遠方への輸送に向かないため、県内にメーカーが存在すること自体が、地域インフラを支える重要な要素になっています。さらに、養豚用コンクリートスノコを製造し、県内で盛んな養豚業を陰で支えています。

また、地元の川砂や近隣で産出される砕石など、県内の素材を使って製造している点も特長です。地域の資源を地域で加工し、地域の建設現場に届ける「地産地消」の循環を担っています。

さらに、現場の声から生まれたオリジナル商品として「擬似目地ブロック」があります。ブロックの形状を工夫することで、縦の擬似目地（ライン）を簡単に出すことができ、従来は職人が手間をかけて仕上げていた目地の表情を、積むだけで再現できます。

その結果、現場での施工時間が短くなり、工期短縮に大きく貢献していると高く評価されています。見た目のデザイン性と施工性を同時に高めていることが、瀬戸山ブロックならではの強みです。

同友会活動

瀬戸山さんは、経営を学ぶ場になると感じ、中小企業家同友会には約7年前に入会しました。

高原にある工場から例会会場までは片道50分ほどかかり、業務との両立が難しい時期もありますが、「同友会で得ているものは大きい」と話します。すでに自社の経営理念はつくっているものの、今後は同友会の「理念をつくる会」にも参加し、理念のブラッシュアップや経営指針づくりに本格的に取り組みたいと考えています。現場と向き合い続けてきた3代目が、同友会を通じて経営の視野を広げようとしている姿が印象的でした。

将来の展望

将来に向けて、瀬戸山さんは新しい商品開発にも目を向けています。ブロックそのものの改良や新形状の開発はもちろんのこと、「圧力を加えてギュッと固める」という自社の技術を、建設以外の分野にも応用できない か模索しています。コンクリートや固形素材の新しい使い

㈲瀬戸山ブロック工業所

住所/ 西諸県郡高原町大字広原4801番地8
TEL/ 0984-42-3460　FAX/ 0984-42-3461
事業内容/ 製造業(建築用コンクリートブロック、エクステリア資材)

瀬戸山ブロックで作られたブロックは、ホームセンターや工場に直接行って購入することもできるそうです。横にJISマークの印と、「せ」と印字があるものが瀬戸山ブロック製。見かけたら、ぜひ手に取ってみてください。

インタビューアー
㈲別府指害保険事務所　別府 昭人
合同会社花菜　村山 美佳

今月号の広報誌では、各分科会担当、記念講演担当より学びのエキスを紹介します。

※報告の要旨をまとめた報告集は2月にお届けできるよう制作をしています。
お手元に届くのをお楽しみに！

第1分科会　価値はつくれる ～地域で花咲く仕事づくり～

㈱クラベル・ジャパン
代表取締役　平田 憲市郎 氏
（佐賀同友会 代表理事）

報告で印象的だったのは、事業環境が急激に変化する中で、企業として変化に対応し、価値を創り続けるという姿勢が、具体的な行動の積み重ねとともに語られたことです。

主力事業であったカーネーション栽培がコロナ禍により大打撃を受けた時、すぐに現実を受け止め、新たな農産物である唐辛子への事業転換に踏み切った決断力と、加工・販売・輸出までを一貫して構築した行動力には、多くの参加者が強い刺激を受けました。理念に基づく決断の軸を持ち、企業が地域の中でどのような役割を果たすべきかという視座を忘れずに取り組んできた平田氏の姿勢は、「価値はつくれる」というテーマを象徴するものであり、経営の原点に立ち返る貴重な学びとなりました。

会社が発展していくために「自社にどのような価値をつけるのか、「どのような未来を、誰とともに築いていくのか」といった視点が随所に盛り込まれており、地域と企業の関係性を、「共創」と捉える姿勢が強く印象に残りました。単なる地域貢献や連携にとどまらず、地域の課題を事業の機会と捉え、経営そのものを通じて地域とともに未来をつくる実践が語られました。

グループ討論では、「人材が定着しない」、「給与の引き上げが難しい」、「地域とのつながりが弱い」など、参加者それぞれが抱える経営課題が率直に語られました。その中で、「自社は社会や地域に対してどのような価値を提供しているのか」という本質的な問いに立ち返り、現状と向き合いながら未来を描こうとする前向きな対話が生まれ、討論の深まりを実感できました。

企業がこれからの時代を生き抜いていくためには、環境の変化に柔軟に対応しつつ、理念を軸に据え、地域との関係性の中で新たな価値を創造し続けることだと学びました。

今回の第一分科会は、まさにその経営の本質を学び、参加者一人ひとりが自分ごととして未来を考える貴重な時間となりました。

㈱IST STYLE　佐藤 輝和（きりしま支部）

第2分科会　中小企業家の旅路 ～本気の同友会活動と不離一体経営～

㈲永田鋼管工業
代表取締役社長　永田 廣樹 氏
（鹿児島同友会 副代表理事）

第2分科会では、鹿児島同友会副代表理事であり、㈲永田鋼管工業（創業1972年・社員16名）代表取締役の永田廣樹氏を報告者に迎え、「中小企業家の旅路～本気の同友会活動と不離一体経営～」をテーマに行われました。阿萬英一朗座長（㈱アーム　社長）は、冒頭の挨拶で永田氏との交流に触れ、同社が社会インフラを支える配管工事を専門に手がける企業として技術力を磨き続けていること、そして同友会活動を通じて経営者としての学びを深めていることを紹介しながら、この分科会での学びの方向を示しました。

永田氏の報告は、入社当初に直面した会社の深刻な課題から始まりました。高い技術力を有しながらも、組織はまとまりを欠き、勤務態度の問題や職人気質による衝突が絶えず、経営面でも不透明な体質が残っていたといいます。苦悩の中で経営者としての模索が続きました。転機となったのは同友会との出会いでした。本音で語り合うグループ討論に衝撃を受け入会を決意、経営指針セミナーに繰り返し参加し、「経営理念は経営の方向を定める羅針盤であること」に気づいたと語られました。経営理念や10年ビジョンを明確にし、経営方針発表会を継続することで、社員の意識も徐々に変化し、会社の方向性が共有されていきました。その結果、労働環境も大きく改善し、年間休日の増加や残業時間の削減、男性社員の育休取得など、働きやすい職場づくりが実現。さらに情報共有の透明化や「さん付け」運動など、風土改革も着実に進みました。永田氏は「仕事の延長に経営があるのではなく、経営は学ぶべきもの」と語り、他者への貢献と自己成長を両立する「トップギバー」を目指す姿勢を示されました。

最後に阿萬座長は、永田氏の報告を「人を生かす経営」の実践により、会社を危機的状況から成長へ導いた素晴らしい事例と総括、阿萬さん自身も社員との辛い別れを最近経験したことに触れ、「同友会で得た理念や仲間の存在が、困難を乗り越える大きな支えになることを確認し、本分科会が参加者に深い学びと勇気を与える時間になったこと」をまとめとして締めくくられました。

㈱コノハナ　塩谷 愛藍（県北支部）

UP DATE information

登録情報変更
㈱LIFE−TELLUS　代表取締役　川辻 真史さん（きりしま支部）が以下の通り変更となりました。
新 ㈱GRAND LIFE　代表取締役　河江 将史さん

住所情報変更
合同会社YPC Pretty channel　代表　枇杷木 由香理さん（きりしま支部）
新 都城市千町4863−5　※住所変更によるTEL・FAXの変更はありません。

会員情報変更
㈱三洋環境社プランナー　専務取締役　福永 真さん（宮崎北支部）
新 代表取締役　檜垣 泰介さん

広報誌にチラシを同封しませんか？

宮崎同友会会員限定で広報誌にチラシを同封することができます。チラシは、お送りしたい月の前月末までに事務局にお送りください。自社での取り組み、やっていることを他の仲間にも知ってもらいましょう。
チラシの封入は**1部10円**です。
会員460名に封入する場合は、460名×10円で4,600円になります。
ご自身の所在支部のみ、特定の支部だけに封入することも可能です。
同封をお考えの方は一度事務局までご連絡ください。

NEW FACE

今回のご紹介は11月1日～11月29日入会された2名の新会員さんです。（支部別・50音順）

にじシステム（同）

きりしま支部

代表社員 護摩所 祐司さん（43歳）

業務にフィットするシステムを開発しています。「真の課題」を深く理解し、柔軟なカスタマイズで最適解を提供。「に」ほんの未来に「じ」ぞく可能な社会を、の理念のもと、お客様の持続可能な成長を目指します。

都城市菓子野町10086-11
TEL / 070-3288-9433

㈱共創設備

宮崎北支部

代表取締役 櫻木 翔太さん（34歳）

宮崎市で業務用空調設備の更新・新設・メンテナンスを行う株式会社共創設備と申します。空調を通じて快適な環境づくりに貢献し、地域の皆様と共に成長できる会社を目指しています。学び合い、良いご縁を築ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

宮崎市大島町山田ヶ原1939-2
TEL / 0985-69-4718　FAX / 0985-69-0225

県北支部	56名
ひむか支部	29名
宮崎北支部	125名
宮崎南支部	77名
きりしま支部	156名
合　計	444名

※2025年11月29日現在